

# 世界に飛躍する特産品

## 台湾市場レポート

### “今こそ、台湾に売り込め”

#### イメージがよい 鹿兒島

このほど、当協会が実施した台湾消費者の嗜好調査では、半数以上が「最も好きなのは日本」と答え、また、「行ってみたい都市」として、「鹿兒島」は北海道、東京、大阪、名古屋に次いで5位となった。

一方、日本食品の「味・鮮度・安全性・品質」は高く評価しているが、「高価格。品揃え不足」と満足していないという結果も出た。また、2000年の貿易統計では、日本にとって台湾は4番目に多い輸出相手国で、台湾からの輸出先は日本が2番手であり、日台間の「モノ」の動きは加速している。

#### 本県産農産物が 大好評！

このような中、これまで台湾で開催した物産観光展やフェアで流通関係者等から市場性・将来性があると評価されている「さつまいも」と「金柑」の試食・宣伝販売を実施。両品目とも台湾でも生産されているのでいささか不安もあったが、さつ

ま芋は青果のほか大学芋・芋ようかんなどの加工品を、金柑は青果で試食・宣伝した。味・形状・品質など消費者の反応もよく、継続取引の商談が成立した。

しかし、現地商社から、安全で安心できる生産情報の提供、品質の高さを活かした優位販売のための高級ギフト用の化粧箱の開発、また、売場を限定した高級イメージの創出など、台湾産との差別化を図るための販売戦略の必要性を指摘された。



SOGO忠孝店(台北市)での金柑試食販売

#### 的確な生産情報を！

東日本大震災や原発事故の影響に伴う日本食品の輸入状況について、台湾動物防疫検疫局基隆分局の林課長に伺ったところ、震災や原発事故の発生時は、厳しい安全基準を設け、日本からのすべての商品を検査していたが、現在は、東北と関東の一部地域の食品を除き、従来どおりのサンプル検査と書類申請等で輸入している。



BreezeSuper(台北市)でのさつまいも試食販売

台湾では、青森産リンゴを筆頭に、桃、ぶどう、長芋等の日本産農産物が多く売られているが、事故をきっかけに、安全・安心に対する台湾国民の意識も大きく変わり、生産履歴の情報開示や質の高い産品が求められている。

#### ネット市場は拡大の一途をたどる

台湾では、百貨店や量販店等での購入に加え、最近ではネットショッピング市場が急激に拡大していることから、総合的に本県をPRする物産観光展の開催のほか、ターゲットを絞り込んだ販売戦略が求められる。



貿易卸商社への聞き取り調査

## 東京駐在員レポート

### “鹿児島県の伝統に培われた 匠の技を売り込め”

～京急百貨店(横浜市上大岡)での「鹿児島県の工芸展」～

のイベントスペースで、週替わりで工芸品、生活雑貨品などの展示会が開催されている。

薩摩焼、大島紬、薩摩切り子、屋久杉製品、錫製品、種子鉄・包丁、竹製品、つげ櫛など15社が自慢の逸品を製作実演も交えて紹介した。当協会が工芸品のみで開催する展示販売会は首都圏では初めての試みであったことから、来場者に鹿児島県の工芸品についてのアンケート調査を実施し、本県工芸品の認知度の把握、消費者ニーズの情報収集を行った。

本県工芸品の認知度向上および県外での新たな需要拡大を図るため、去る、10月19日(水)～25日(火)7日間、横浜市上大岡の京急百貨店において、「鹿児島県の工芸展」を開催した。会場は、7階リビング売場の一角にある「新・横浜家族の店」というユニークな名前の50坪程

「白薩摩焼や屋久島硯など初めて見た」「伝統の技、素材のすばらしさを感じた」「鹿児島で生産されていることを初めて知った」「職人さんからこだわりや使い方など直接聞くことで良かった」などの意見をお客様からいただいた。認知度の低い商品があるということ、まだまだ市場開拓の余地があると感じた。会期中、つげ櫛、竹製キッチン関連商品、火山灰白土洗顔料、シルク化粧品、サンゴ、パール の装身具など女性を使う物は人気が高かった。



薩摩焼に見入るお客様

同店営業本部ハートフルサービスリビング部小谷ハイヤーからは「九州展、職人展では、鹿児島県の工芸品の一部しか紹介することが出来ず、今回、『衣・食・住』の鹿児島県の工芸品の魅力を当店のお客様に広く紹介できた。お客様に馴染みがなく、すぐに売上に至らなかった商品もあったが、手ごたえは感じている。また、若手の職人さんを始め、鹿児島県の方々の熱心さと団結力を感じた。今回を機に継続して工芸展を開催し、作り手自らが商品のこだわり、生活文化、価値観などを紹介し、顧客満足度を高めていただき、鹿児島県のファン作りの場として活用していただけることを期待したい。」というご意見をいただいた。

### 九州新幹線全線開業効果を取り込もう!!

10月から、熊本・宮崎・鹿児島県の3県とJRグループ6社が展開する「熊本・宮崎・鹿児島デスティネーションキャンペーン」も始まり、九州新幹線全線開業で注目を集める南九州への関心度はさらに高まっています。

このような中、県内各市町村も全線開業の効果を地域振興につなげようと、物産観光展においてさまざまなお取組を行っております。

9月中旬に開催した広島市の「福屋八丁堀本店」では、いちき串木野市を特集し、同市のマグロ、さつまあげ、郷土菓子、卵などの商品を出展するとともに、初日から2日間、特設コーナーでのPRレディによる観光や特産品の紹介、クイズ大会、ジャンケン大会などのイベントを実施しました。

また、開催前日には、広島市のテレビ局や新聞社などを表敬訪問し、いちき串木野市を大いにPRしました。

翌週の北九州市「井筒屋黒崎店」では、種子島・屋久島を特集しました。2島か

らは薩摩焼、種子鉄・包丁、黒糖、菓子など9社が出展し、伝統的な技と味を紹介しました。種子島宇宙ロケットのレプリカを展示するとともに、初日は、フレッシュ種子島、屋久島水の精による観光PRやポストカードプレゼント、焼酎の鏡割りと振舞いなどのイベントを実施し、大勢のお客様でにぎわいました。また、南九州市も知覧特攻平和会館のパネル展示をし、土、日には会館の語り部が講話するイベントも実施しました。

観光に関するお客様からの問合せも例年以上に多く、全線開業の認知度や鹿児島への関心・期待の高まりを実感しました。

あなたの町も物産観光展を活用して特産品や観光についての情報発信を総合的に行ってみませんか？

当協会  
会流通  
企画課  
へご相談ください。



テレビ取材対応中の「いちき串木野PRレディ」